女流義太夫普及公演

ぎだゆう座

八月公演

二〇二三年　八月一日（火）・二日（水）

〔一日〕

解説　竹本　越京

恋女房染分手綱　重の井子別れの段
浄瑠璃　竹本京之助　三味線　鶴澤津賀花

本朝廿四孝　十種香の段
浄瑠璃　竹本土佐恵　三味線　鶴澤　駒清

〔二日〕

解説　鶴澤津賀榮

恋女房染分手綱　重の井子別れの段
浄瑠璃　竹本京之助　三味線　鶴澤津賀花

本朝廿四孝　十種香の段
浄瑠璃　竹本土佐恵　三味線　鶴澤　駒清

◎ところ　お江戸上野広小路亭　TEL03-3833-1789

JR山手線御徒町駅下車徒歩３分　東京メトロ銀座線・都営大江戸線　上野広小路駅A4出口すぐ

◎開演　午後６時半(開場６時)

◎入場料　前売り1500円　子ども500円（当日券はございません）

【完全予約制】定員になり次第終了　※ご予約の際にご入場者全員の氏名、電話番号をお知らせください

◎お申し込み　（Email）jyogi.gidayuza@gmail.com

◎お問い合わせ　（一社）義太夫協会 TEL03-6265-1880　https://www.gidayu.or.jp

◎主催　ぎだゆう座　◎共催　永谷商事

☆裏面もご覧ください

恋女房染分手綱　重の井子別れの段

由留木家の調姫は、輿入れのため江戸へ出発しようとしています。馬方の三吉が道中双六で姫の機嫌をとったので、重の井は三吉に褒美を与えてねぎらいます。三吉はお乳の人の名が重の井と聞いて、わしの母さんだと取りすがります。重の井は、三吉が我が子と悟りつつ、三吉と姫君が乳兄弟であるとわかったら、姫の嫁入りのじゃまになると思い「今は母でも子でもない」と泣く泣く言い聞かせます。三吉は、父の帰参がかなうよう殿様にお願いしてくれと頼みますが、母は聞き入れずに追い立てます。泣く泣く出て行く三吉の後ろ姿に、重の井はたまらず手持ちの金を渡そうとしますが、三吉は母様でもない赤の他人に金をもらう理由はないと言います。

いよいよ花嫁の行列の出発。重の井はそしらぬ顔で、姫君の慰みのために三吉に馬子唄を歌わせよと命じます。三吉は涙声に馬子唄を歌うのでした。

本朝廿四孝　十種香の段

【これまで】武田の重宝諏訪法性の兜を、長尾が武田から借りたまま返さないのが原因で、甲斐の武田信玄と、越後の長尾謙信は長年にわたり敵対しています。それを憂いた将軍足利義春は両家に和睦を命じ、信玄の子息勝頼と、謙信の息女八重垣姫の縁組が決まります。が、義春が何者かに暗殺され、武田と長尾に疑いが掛かります。両家は三年間の猶予が与えられ犯人の探索を命じられますが見つからず、責任をとって両家とも跡継ぎの武田勝頼と長尾景勝を差し出すことになりました。勝頼は切腹しますが、それは武田家乗っ取りを企んだ悪家老の子で、本物の勝頼は簑作と名乗り庶民の間で暮らしていました。

諏訪法性の兜を取り戻す為、勝頼は簑作という花作りに化け長尾家に入り込みますが、謙信は簑作を侍に取り立てます。

館の一間では謙信の息女八重垣姫が、切腹と伝えられた許婚勝頼のために死者を弔う十種香を炊いて絵姿に回向をしています。そこへ死んだ筈の勝頼にそっくりな箕作が現れ、姫は驚きます。はじめは否定していた箕作でしたが、腰元の濡衣が勝頼本人と認めます。そして濡衣は、姫の勝頼に対する心が真実である証として、諏訪法性の兜を盗み出して欲しいと姫に依頼します。

そこへ謙信が現れ、簑作に塩尻までの使いを命じます。謙信はやはり箕作の正体が勝頼だと見破り、道中箕作を討つ刺客を用意し後を追わせるのでした。

《お客様へのお願い》

＊　入場時には手指の消毒をお願い致します。
＊　マスクの着用を推奨しております。
＊　会場備え付けの**スリッパ**は使用できません。**必要な方はご持参下さい。**
＊　客席には間隔をあけてご着席いただき、大きな声での会話はお控え下さいますようお願い申し上げます。
＊　37.5℃以上の発熱のある方、それ以外でも咳・痰の症状があるなど体調の悪い方は来場をお控え下さい。
　　入場料をお支払い頂いていた方には後日返金させて頂きます。
＊　演奏中の許可のない撮影・録音はお断り申し上げます。